

益城町複合施設（仮称）建設基本設計

1. 設計基本方針

「益城町複合施設（仮称）」は、平成 28 年熊本地震にて被災し再建が必要になった「中央公民館」「男女共同参画センター」「地域ふれあい交流館」の 3 つの施設を複合化した施設です。

平成 31 年（2019 年）3 月に「益城町複合施設建設基本計画」（以下「基本計画」という）を策定し、施設に求める基本的な考え方をまとめ、施設規模を約 2,000 m²、敷地面積を約 8,000 m²と決めました。そのうえで必要な敷地面積を確保できる現在の仮設庁舎周辺のエリアで再建する方針を策定し、仮設庁舎敷地を第一候補地に選定し基本設計を進めることに決定しました。

益城町複合施設（仮称）建設基本設計（案）では、基本計画で定めた「目指す姿」を基にした設計方針を掲げ、各分野の具体的な視点により、防災機能を付加した施設としてまとめました。また今回の施設整備に併せて、敷地西側を通る道路を新設し、交通網及び河川氾濫時の浸水想定区域内からの避難路として整備を行います。

【目指す姿】

地域を結び将来の発展を目指す地域づくりの拠点

（1）すべての人にとって使いやすく、多様な使い方ができ、長く使い続けることのできる施設

- ・誰もが集まりやすく、使いやすい交流拠点
- ・地域の気候と建物形状を生かした、快適で長寿命な低ライフサイクルコストによる設計

（2）災害に万全に備え、人々を受け入れられる安全・安心な施設

- ・災害発生後、速やかに初動期体制が取れる施設利用計画
- ・震災の教訓の継承と災害知識を自然に学ぶ施設

（3）まちの活性化に貢献し、人々の活動と交流のシンボルとなる施設づくり

- ・様々なニーズへの対応を想定した施設計画
- ・中庭を中心とした、交流を促進する魅力ある空間づくり



■鳥瞰イメージ

2. 配置計画

1 安全で使いやすい動線計画

建物を敷地南寄りに配置し、敷地北側の幹線道路から入りやすいよう利用者用駐車場を整備します。河川氾濫時の浸水想定区域内からの避難者動線として敷地西側には新設道路と併せて歩道を整備します。また、バスが巡回できる道路を整備し、公共交通機関の円滑な運営に寄与します。敷地周囲には緩衝スペースとして緑地帯を設け、周辺環境に配慮します。

2 多機能に利用できる広い駐車場

敷地北側に約 180 台収容できる屋外駐車場を整備します。駐車場を広く整備することで、利用者の利便性を高めます。災害時には車両避難所としての利用を想定します。

3 多世代の交流を育むプレイパーク

建物の周囲に住民の方が自由に使えるオープンスペースを設けます。

●動線計画

- ①車寄せ庇をメインエントランスまでのばし、雨天時でも利用しやすい計画とします。
- ②メインエントランスの他に建物出入口を複数設け、気軽に立ち寄りやすい施設とします。また、大人数が利用する部屋には直接屋外に出られるよう出入口を設け、災害時の円滑な避難を可能とします。

●駐車場・駐輪場

- ③利用者用駐車場（約 180 台）
中央部には車止めを設けず、有事の際は防災広場として利用できる計画とします。

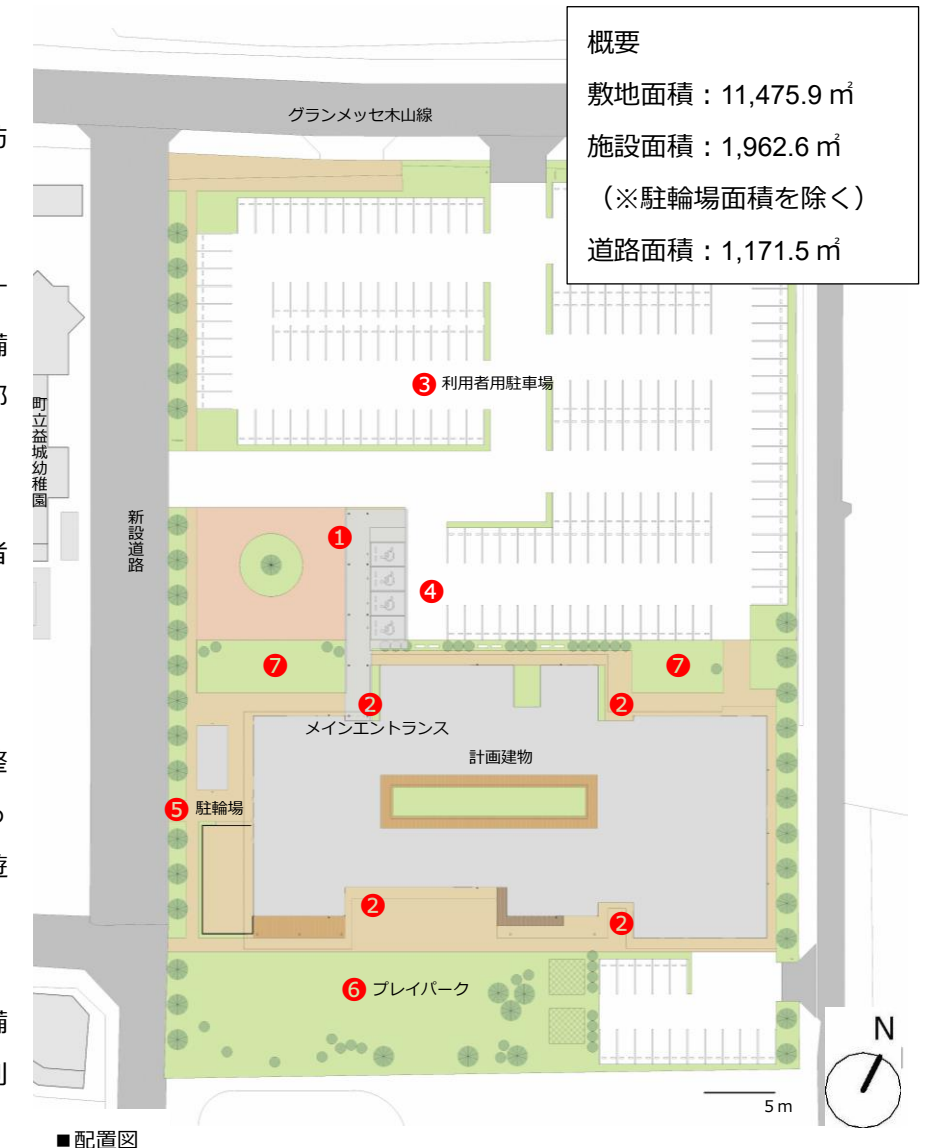
- ④障がい者等用駐車場（4 台）
熊本県ハートフルパス制度に則し、該当する駐車場をメインエントランス付近に整備します。雨天時でも利用しやすいよう上部に庇を設けます。

- ⑤駐輪場（約 30 台）
メインエントランス付近に整備し、利用者の利便性を向上させます。

●オープンスペース

- ⑥プレイパーク
住民の方が自由に使えるプレイパークを整備します。プレイパークには、築山を使った遊具を完備し、子どもたちが安心して遊べる公園とします。

- ⑦まちかど広場
東西に一か所ずつ「まちかど広場」を整備します。広場では屋外の活動場所として利用する計画とします。



■配置図

3. 内部計画

- 中庭を中心に共用部「ホール」を設け、利用者が快適に過ごせる憩いの場をつくります
 - ・中庭を利用して開放的で施設内の活動を確認し合える空間を演出し、利用者の多世代交流を育みます。
- ホールの随所に展示スペースを設けます
 - ・施設利用者の日頃の活動をアピールするスペースとし、交流のきっかけとして自身の活動の活力につなげます。
 - ・町の歴史や記録・広報誌等を収蔵し、町に興味を持ってもらう機会として利用します。
- 新規機能を取り入れ施設の充実を図り、すべての利用者が使いやすい施設をめざします
 - ・従前の3施設には整備されていなかった授乳室や防災備蓄倉庫を整備し、施設の機能強化を図ります。



■内部計画



■内観イメージ

- ①**管理・事務室**をメインエントランス付近に配置し、誰もが分かりやすく、利用者を案内しやすい計画とします。また、相談室を奥に配置し、相談者のプライバシーに配慮します。
- ②**ホール**を交流の場として活用し、人の出入が多いホール部分を交流スペースとして整備します。中庭を中心に机や椅子を配置し、交流を育む場とします。
- ③**研修室**には研修会の規模に応じて開閉可能なスライディングウォールを設置します。
- ④避難所となった場合の導線を考慮し、多目的ホール付近に**トイレ**を配置します。トイレには**多機能トイレ**を複数設置し、利用者の利便性を確保します。
- ⑤軽運動の他、講演会や展示会などが開催可能な**多目的ホール**を整備します。多目的ホールでは、多様な使い方が可能で、災害時の避難スペースとしても機能する計画とします。
- ⑥**防災備蓄倉庫**は避難所開設時の必要物資を円滑に準備できるよう避難スペースとなる多目的ホールに隣接して配置します。
- ⑦オープンスペースを利用した形式の**講習室**を配置し、利用者の活動を他の利用者にダイレクトに伝える部屋として整備します。
- ⑧子育て世代が利用しやすい**キッズプレイルーム**を設置します。**こどもトイレ**や**授乳室**といった部屋と隣接し利便性を向上します。
- ⑨部活動のOB・OGや趣味で演奏活動をする人が気軽に利用することが可能な、防音仕様の**スタジオ**を整備します。

4. 外観計画

1 益城ならではの屋根形状を採用

- ・益城四山、歴史文化などにちなんだ4つの頂点の曲線がある屋根形状とします。
- ・広大な山並みや、緑豊かな町の風景に調和し、町民に親しまれる建物デザインとします。
- ・部分的に大きく伸びた屋根が深い軒下空間を生み、建物に陰影を与えるデザインとします。

2 メンテナンスがしやすいシンプルな外装を採用

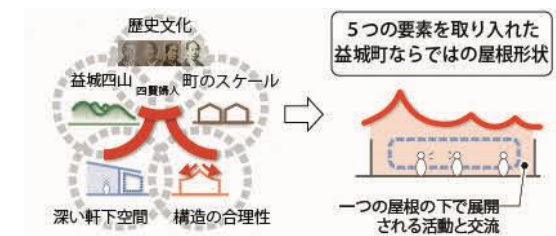
- ・特徴的な屋根形状を活かすシンプルな外装を採用します。
- 外装材は長寿命で維持管理が容易な仕上げを選定し、将来のランニングコストの低減を図ります。

3 内部活動をアピールできる開口建具を採用

- ・大開口をメインエントランス西側に設け、内部活動をアピールできる開口建具を採用し、活発な住民活動を生み出し、人と人の交流を循環的に作り上げられるきっかけをつくる施設とします。
- 多様な用途に対応できるよう、屋内外の一体利用を可能とする開放空間とします。

4 町並みへの配慮

- ・周辺環境に応じて建物ボリュームの分節化・配置を行います。
- ・外壁材の塗装の色や光沢に幅を持たせることで重厚感のある外観とします。
- ・敷地内通路沿いに緑地帯を設けることで、近隣の幼稚園や災害公営住宅の緑地と一体となった緑豊かな町並みを形成します。



■屋根形状コンセプト



■開口建具イメージ



■外壁材イメージ



■外観イメージ

5. 災害対策

1 避難所を想定した施設計画

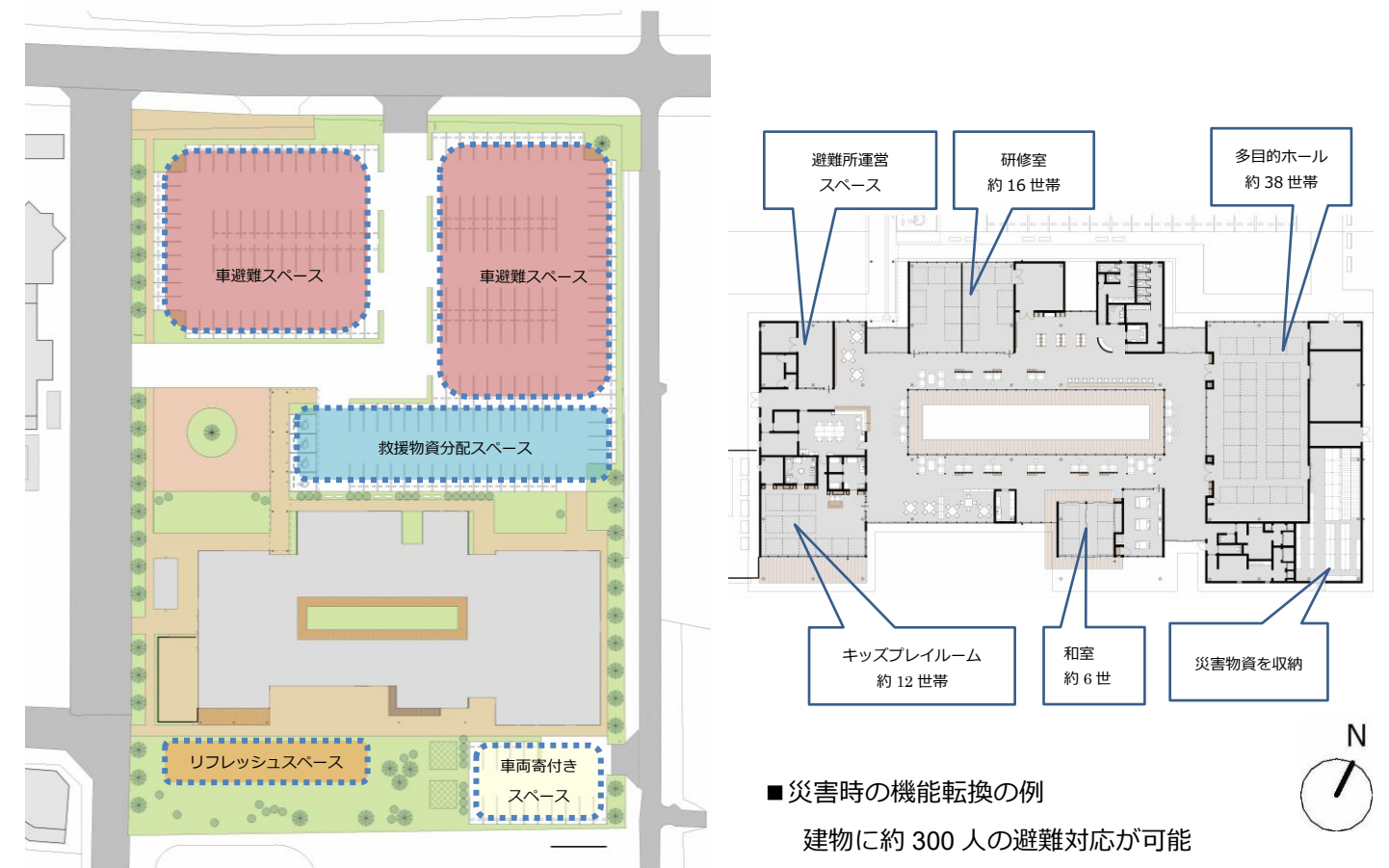
- ・防災備蓄倉庫を整備し、避難所開設に必要な物資を収納します。
- また、物資は車両寄付き付近に配置します。
- ・多目的ホールに限らず、各諸室を避難スペース等として使用することが可能な計画とします。
- また、避難者の人数、特性に応じた避難が可能な計画とします。
- ・避難所生活が長期間に渡る場合、屋外の広場において軽運動等を通じリフレッシュができる計画とします。
- ・屋外には、長期避難に対応できる設備を計画します。

2 普段の利用から災害を学べる計画

- ・災害知識を壁面サインに使用し、施設利用の中で防災知識を啓発できる計画とします。
- ・日常的に各種イベント会場として使用することで、災害時には避難所として開設されることを認識してもらえる計画とします。

3 災害に強い建築計画

- ・熊本地震において多くの建物が倒壊し、継続した利用が困難になった経験を踏まえ、構造体の安全性分類Ⅱ（重要度係数 1.25）を満たす堅牢な建物とします。
- ・軽量の屋根により地震の揺れに強く合理的な構造とします。
- ・大空間の天井は吊り下げ機器を極力なくし、災害時の落下の危険性を少なくします。
- ・インフラが途切れた際にも電力が利用できるよう設備の冗長化^{じょうちようか}を図ります。



■災害時の機能転換の例

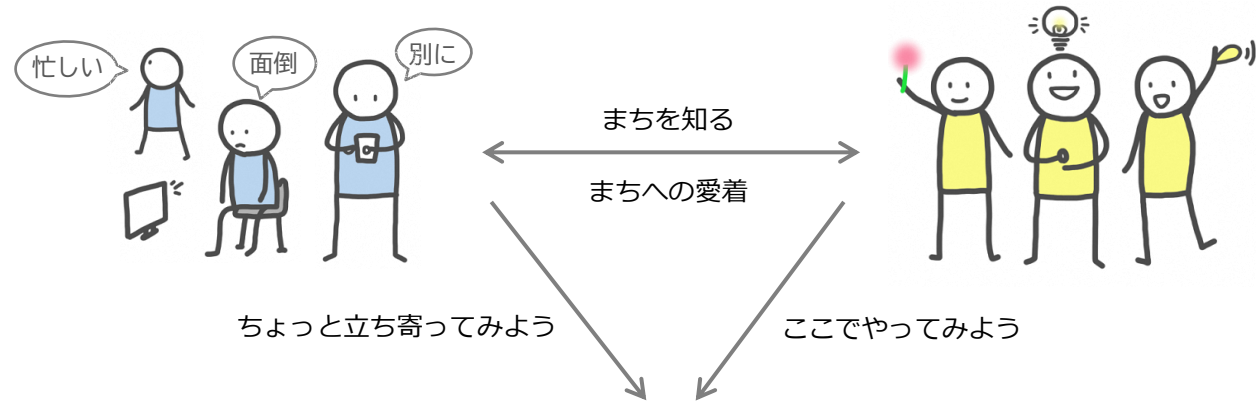
建物に約300人の避難対応が可能

6. 運営計画

1 実現したいこと

今回複合化する施設は、これまで地域活動などで多くの方々に利用されてきました。しかし、その一方で、生活環境の変化や価値観の多様化などにより、利用者が減少している傾向がありました。

そこで、従来の使い方に加えて、多様な使い方を創出することにより、多世代が地域活動に参加しやすくなる運営コンセプトをもって施設整備を進めていきたいと考えています。



ひとり時間を大切に、多様な関わり方を用意して、多様な活動を実践できる場

カフェのような居心地で

開放的なスペースで

行ってみると何かがある

いろいろな人がいる

サークルに入らなくても

活動拠点となる

基本計画で掲げた施設の「目指す姿」を実現します。

2 実現に向けての今後の展開

まちの皆さまと一緒に、使い方や運営策を練っていきたくと考えています。

具体的には、「アイデア発想」「制度設計」「お試し会」の3ステップで具現化していくことを予定しています。

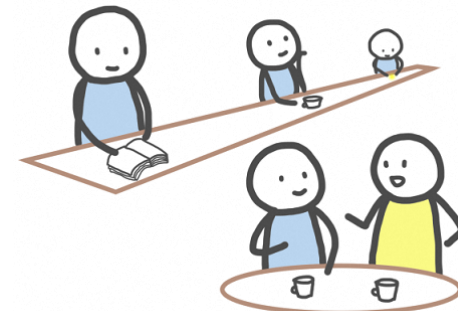
- ①「アイデア発想」・・・まちの皆さまとのワークショップなどでニーズや担い手を発掘
- ②「制度設計」・・・アイデア発想を受けて、行政として制度や支援策を検討
- ③「お試し会」・・・施設建設中に別場所で実験的に利活用イベントを開催し、施設開業までの準備



3 利活用イメージ

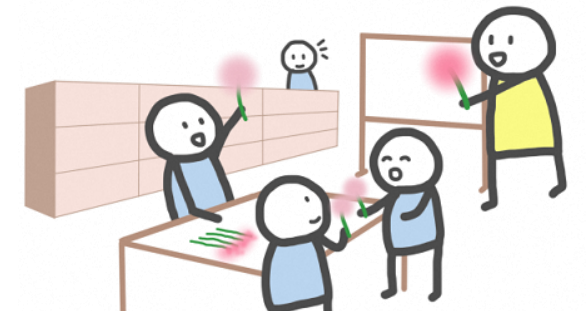
施設整備を進めるにあたり、次のようなスペースの構築をイメージしています。

ひとりで一息ついたり、気分転換できる
居合わせた人でちょっとした交流を楽しむ



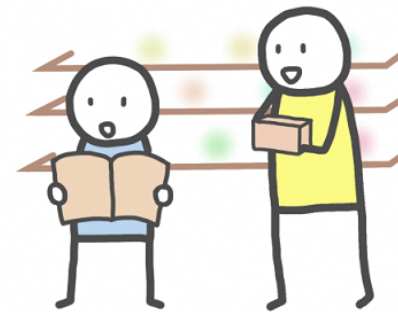
カフェのようにゆっくり過ごせるスペース

趣味などのテーマを介して交流する
誰かと楽しいことを共有する



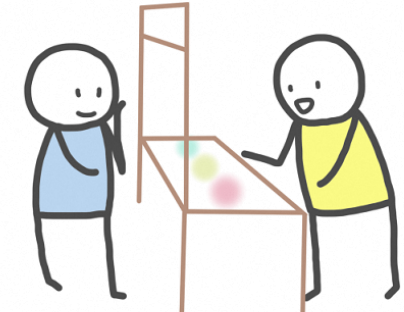
まちの人が先生役で趣味などの魅力を伝えるスペース

ふらっと立ち寄るだけでも楽しめる
誰かをそっと楽しませることができる



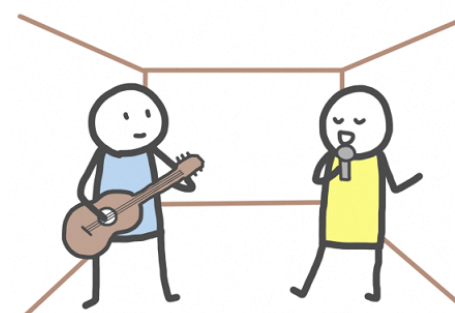
手作りの作品などを展示するスペース

ここで学んだ人がまちで起業して、
まちの魅力も増える



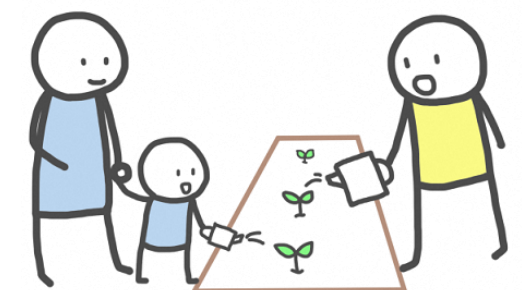
手作りの品のバザー対面販売などで起業に向け勉強できるスペース

サークルに入っていないなくても、
気軽に活動を楽しむことができる



楽器演奏など多様な創作活動を楽しめるスペース

協力して何かに取り組むことで、
多世代交流が盛んになる



共同作業や創作活動を楽しめるスペース

■用語説明集

NO.	用語	説明
1	オープンスペース	敷地内に設けられた、建物の立っていない部分のことをいい、公園や遊び場、植栽が施された遊歩道などに利用される。
2	車寄せ	建物の入口近くに車を寄せて、乗降するためのスペース。
3	熊本県ハートフルパス	公共施設や店舗など様々な施設に設置されている障がい者等用駐車場を適正にご利用いただくため、障がいのある方や高齢の方、妊産婦の方など移動に配慮が必要な方に対して、県内共通の利用証（ハートフルパス）を交付することで、本当に必要な人のための駐車スペースの確保を図る制度。
4	防災備蓄倉庫	避難者への支援物資を保管する倉庫。
5	スライディングウォール	移動可能な間仕切り壁。
6	こどもトイレ	子どもの背丈に合わせた便器や洗面器、指はさみなどの安全設計がされたトイレ。
7	ランニングコスト	建物を維持管理するためにかかる費用のこと。